



	コミュニティ・スクール 八小だより 武蔵村山市立第八小学校 平成27年 9月 1日 (新アドレス) http://www.city.musashimurayama.lg.jp/mmced8s/index.html	教育目標 ◎ 考える子 ○ 思いやりのある子 ○ やりとげる子
	行動目標 わけをそえて話すことができる子 教室で話しているのは一人	

夢をもって生きる

校長 牧 一彦

私がS君と初めて出会ったのは、昭和62年の春でした。八王子の小学校で新卒4年目を迎え、初めて3年生の担任をした時のことです。S君は、他の3年生と比べて体がひとまわり大きくて、がっちりした体格でした。休み時間にドッジボールをすると、S君はとても3年生とは思えないほど速くて重い球を投げ、大人の私でも捕り損なうほどです。そして誰よりもスポーツ万能だったと記憶しています。

「これ、先生にあげるよ。うちにいっぱいあるから。」

と、ある日の放課後、手渡された物を見て、ちょっとびっくりしました。『第〇回 日野市民柔道大会 小学生の部 敢闘賞』と刻印されたそれは、なんと柔道大会の楯でした。

「S君、これは人にあげる物じゃないんだよ。あなたがもらった大切な物でしょ？」

「大切な物だからあげたいんです。お母さんもいいと言っていたし。」

何度も断りましたが、一度言い出したら聞きません。仕方がないのでしばらく預かっておくことにしました。そしてその時、S君の夢は「柔道でオリンピック出場」、ということを知りました。

小学校を卒業したS君は、私立中学に進学し、柔道に専念するため、親元を離れて寮生活を始めました。厳しい練習の毎日で、逃げ出したくなったこともあるそうです。しかしS君は夢に向かってがんばったそうです。

8年が過ぎたある日、S君の母親から1通の手紙が来ました。「Sがテレビに出るから、ぜひ見てやって欲しい。」という内容でした。

『第17回 全国高等学校柔道選手権大会 団体戦 決勝』

S君は国士舘高校の次鋒として出場し、見事団体優勝を果たしました。降した相手校は、なんとあの井上康生選手を擁する東海大相模高校です。この快挙を、私は心の底から喜びました。彼の夢「オリンピック出場」が夢でなくなる日も近いと確信しました。

その後私は、ことある毎に柔道の雑誌や新聞記事のスポーツ欄に目を通すようになりました。大学に進学し、その後社会人になってからもS君は、全国レベルの大会には必ずエントリーされ、好成績を修めていました。しかしあと一步のところまで、あのシドニーオリンピック金メダリストの井上康生選手や、鈴木桂治選手に行く手を阻まれてしまうのです。

平成21年3月、30歳で現役を引退した彼は、残念ながらオリンピック出場の夢を果たすことはできませんでした。しかし後悔はしていないと言います。「全国大会で優勝できたこと」はもちろんですが、何よりも「夢をもってがんばり続けてきたこと」が支えになり、困難があっても乗り越えられる強い心と体を鍛えることができたということです。

現在は千葉県私立高校の教員として、また柔道部の顧問として生徒の指導に当たり、彼の果たせなかった夢を自分の教え子に託し、日々努力を続けています。

本校にも、「目標に向かってがんばっている子」がたくさんいます。スポーツに限らず、夢をもって努力を続けることが人間を大きく成長させると思います。S君のように、より高い目標を立て強い意志をもち、困難があってもくじけずに努力を続けられる八小の子に育てていきたいと思います。

9月12日土曜日、このS君を道徳授業地区公開講座の講師として、本校に招きました。道徳授業の参観と併せて、講演会にも足を運んでくださいますようお願い申し上げます。